

富山県における日本海学の提唱

富山県では、環日本海地域の21世紀における持続的発展を可能とするためには、環日本海地域が抱える問題をトータルに捉え直し、今後のあり方を探っていくことが重要であるとの認識から「日本海学」の確立を提唱している。

「日本海学」は、環日本海地域全体を、日本海を共有する1つのまとまりのある圏域としてとらえ、日本海に視座をおいて、過去、現在、未来にわたる環日本海地域の人間と自然のかかわり、地域間の人間と人間のかかわりを「循環」と「共生」と「海」の視点を明確にしつつ、環境、文化、交流など総合学として学際的に研究しようとするものである。

2001年7月に開催された、北東アジア自治体連合の一般交流分科会において「日本海学」が紹介され、これを支援する方向で合意がなされた。この組織に参加しているのは、2003年2月現在6カ国39自治体にのぼっている。

また、「日本海学」のコンセプトをベースに環境保全に取り組む環日本海のNPO、NGOのネットワークも形成されつつある。今後、国内各地や北東アジア地域での行政、学術、民間など様々なレベルにおける普及や進展が期待される。

日本海学の具体的な研究分野は次のとおり。

- ① 環日本海の自然環境
誕生から現在までの日本海および環日本海地域の自然環境変動の歴史を様々な手法を用いて解析し、変動の周期性から、近未来の変動予測を行う。
- ② 環日本海地域の交流
日本海を介した環日本海地域の交流を生み出した要因や交流の形態を、歴史を踏まえて地球規模の観点から明らかにする。
- ③ 環日本海の文化
環日本海地域の民族が環日本海の自然環境や交流の影響を受けながら創り出し、受け継いできた生活文化の特色や日本海とのかかわりの中で生まれた海と森の思想や信仰を明らかにする。
- ④ 環日本海の危機と共生
半閉鎖海域である日本海の環境保全のための方策や国際協力、未来の環日本海地域の可能性を探り、人間と自然との共生、環日本海地域の共生を提示する。

日本海学の視点

- ①循環
環日本海地域が周期性をもった地球全体の自然環境システムの中で存在しているという視点
- ②共生
環日本海地域における人間と自然との共生、日本海を共有する地域間における人間と人間との共生の視点
- ③日本海

環日本海地域において、日本海が果たしてきた役割、意義を問い直し、これからの日本海との関係を見つめる視点

「日本海学」をベースとする取り組みを行政、学術、民間など様々な立場から推進し、それぞれの地域が環日本海、北東アジアという枠組みで、これまでの国家中心の考え方から地域中心の考え方への転換を図り、地域のアイデンティティーの確立を図ることによって、真の地方分権によるパラダイムの転換が可能となると考えられている。

(出典) 富山県資料

富山県が提唱する「日本海学」の概要

< 日本海学の目指すもの >

日本海学は、環日本海地域及び日本海を一つの循環・共生体系としてとらえて、地域・地球の自然環境と人間とのかかわり、地域間の人間と人間とのかかわりの歴史の中で繰り返されてきた循環・共生システムに学んでいく。そして、将来において起こりうるさまざまな問題を予測し、これに対処する備えを用意することにより、地域全体の危機を回避し、ひいては健全な地域・地球を子孫に引き継いでいくことをめざすものです。

環日本海地域の危機回避

急激な近代化・工業化、人口の増加及び一極集中に伴う地球未来最大の脅威

< 成長の限界：直線的発展の文明観の破綻、人類生存にかかわる危機の顕在化 >

枯渇する天然資源	化石燃料の枯渇・森林破壊・砂漠化の進行
国境を越えた環境破壊	海洋汚染・大気汚染・地球の温暖化
生態系の崩壊	急増する生物種の絶滅

< 相互に関連する4つの研究対象分野の構成 >



日本海学の取組み状況

1. 定期刊行物の発行
「日本海学の新世紀」第1・2・3集
2. 日本海学叢書の発行
3. シンポジウム開催（富山、大阪、東京）
4. 日本海学講座・海洋講座の開催
5. 日本海学推進機構設立

今後の取組み

1. 調査研究委託、研究グループ支援
2. 大学連携講座の推進
3. 「日本海学の新世紀」第4集発刊
4. 中学生向け日本海学副読本発刊
5. シンポジウム・講座開催 など

環日本海から、21世紀の新たなパラダイムの創出

～持続的発展をめざした地域アイデンティティの確立～

- ・ 直線的文明観から循環的文明観へ
- ・ 森の文明の創造、共生の価値観へ
- ・ 地球共生型の経済活動の実現へ
- ・ 国家中心の考え方から地域中心の考え方へ
- ・ 人口の一極集中から地域分散・すみ分けへ